

# 自由民主党

ご相談やご意見、ご要望のある方はお気軽にご連絡下さい。

## 衆議院議員 田中和徳 かずのり 国政報告書第269号

衆議院議員田中和徳事務所  
TEL:03-3508-7294  
FAX:03-3508-3504  
<http://www.tanaka-kazunori.com>  
E-mail:k-tanaka@kamome.or.jp



# 犯罪は高校卒業で飛躍的に減少！

**犯罪者を出さないために、誰もが高校を卒業し、就職・進学することが重要！**

- 国は、東京オリ・パラまでに『世界一の犯罪最少国家実現』という大目標を決定し、犯罪対策を強力に推進。その中で、田中和徳は党再犯防止特命委員長や更生保護議連会長を務めており、昨年12月には再犯防止推進法を成立・施行させるなど、主導的な役割を果たしている。
- 犯罪や再犯を防ぐ重要なポイントは、非行や犯罪を起こした中・高生徒や不登校生徒なども含めて、誰もが最低でも高校を卒業し、進学・就職できるルールを確立することが極めて重要。
- 刑務所入所者の平均収容期間は約2年半、裁判や刑務所の維持管理費など、受刑者1人当たり約1千万円の公費(税金)が掛かる。犯罪抑止は国民負担軽減の面でも大きなメリットがある。

## 1. 犯罪と中学校卒業・高校中退との深刻な相関関係

- ◆田中和徳は、全国高等学校定時制・通信制教育振興会の副会長(関東地区と神奈川県の間長も兼務)として、定時制・通信制高校の振興、生徒の学校生活の向上に取り組んでいる。
- ◆高校進学率と高校卒業率は年々上昇している。しかし、特に定時制や通信制高校生徒の中退率は依然として高い傾向があり、一層の対策の推進が喫緊の課題である。
- ◆下図の通り、**最終学歴が中卒・高校中退の人数は全体の2割未満**、しかし、**2015年の新規刑務所収容受刑者の3分の2は中卒・高校中退者が占めている**。大問題かつ異常な事態である。
- ◆また、少年刑務所や少年院の収容者の6割以上が、中学卒または高校中退者で、再犯を繰り返す割合が非常に高い。一番の防止策は、高校に入学、復学をさせ、卒業させることが特効薬。

〈中学校を卒業した生徒の進路状況 2016年3月卒業〉

専修学校への入学	就職	自治体の職業訓練施設への入所	進学も就職もしない
3346人(22.5%)	3259人(21.9%)	366人(2.5%)	7933人(53.2%)

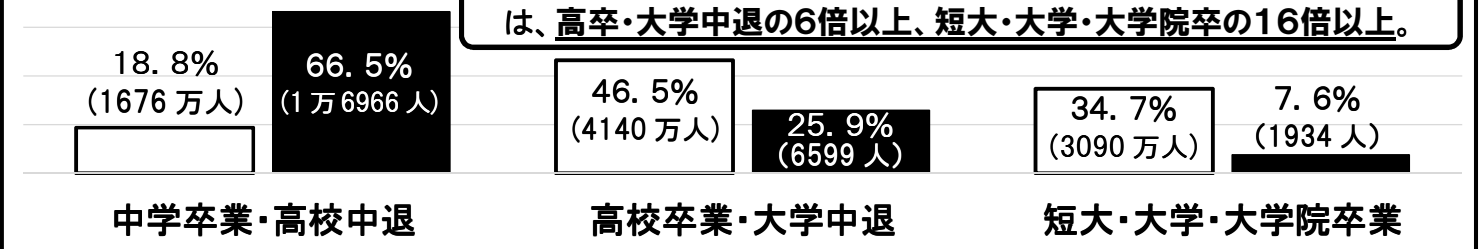
〈高校における中退者数と中退率の推移〉

1983~85年	1988~90年	1993~95年	1998~00年	2003~05年	2008~10年	2013~15年
2.2% (11万4834人)	2.2% (12万3529人)	2.1% (9万8179人)	2.6% (10万9146人)	2.1% (7万6693人)	1.6% (5万5415人)	1.4% (4万9263人)

### 刑務所収容新規受刑者(2015年)の最終学歴別割合と、15歳以上の全人口

□...15歳以上の全人口 ■...2015年に刑務所に収容された受刑者

人口比で見ると、中卒・高校中退の層から刑務所収容受刑者が出る割合は、**高卒・大学中退の6倍以上、短大・大学・大学院卒の16倍以上。**



- ◆犯罪の一番の要因は、貧困。貧困は劣悪な生活環境や社会への不満を溜め込み、精神的にも不安定になりやすい。また、低学歴の人々ほど不安定で低収入の非正規の職業が多い。

《最終学歴別の正社員・非正規労働者の割合 2013年》

	中学卒業・高校中退	高校卒業・大学中退	大学・短大・大学院卒業
正社員	37.5%	57.1%	79.6%
非正規労働者	62.0%	42.8%	20.4%

## 2. 高校中退の実状

- ◆文部科学省の最新の統計では『高校への進学率は98.7%』『高校中退率は1.4%』  
高校の種類別中退率、また、生徒が高校中退に至った理由は以下の通り。

《高校の種類ごとの中退率 2015年度》

全日制				定時制	通信制	全体平均
普通科	専門学科	総合学科	全日制全体			
0.8%	1.1%	1.3%	0.9%	10.0%	5.5%	1.4%

《高校中退者が中退に至った原因 2015年度》

学校生活・学業への不適應	進路変更	学業不振	家庭の事情	問題行動	その他
34.1%	34.3%	7.8%	4.5%	4.1%	15.2%

- ◆高校生活への不適應とは『学業の不振や熱意がない』『人間関係が上手くいかない』など。  
退学後の進路は『学業より就職を希望』『他の高校へ編入を希望』などが挙げられる。
- ◆全日制高校に比べて定時制や通信制は中退率が著しく高い。効果ある中退防止対策が急務。

## 3. 高校進学促進と中退防止に向けた取組み

- ◆事情を問わず、誰もが最低でも高校を卒業できるよう、下記の対策を進める必要がある。
- ◆中学卒業後の進路で、高校に進学しない生徒の半分以上が就職せず、職業訓練も受けない。  
高校進学を選ばない理由は、学業不振、いじめ、不登校など様々な原因が存在。

### 具体的な取組みⅠ：生徒に寄り添い不登校やいじめを防ぐ

- ① 問題を抱える生徒の心をケアするため、スクールカウンセラーやソーシャルワーカー（※行政等と連携して適切な社会保障を提供する福祉の専門家）の配置を、財政的に支援。
- ② 近年急増しているツイッターなどを通じたいじめを防ぐため、ネットパトロールを強化。
- ③ いじめや非行を防止するため、教員を増やすとともに、学校と警察の連携を強化。
- ④ 生徒が抱える多種多様な問題に対応するため、教員の養成・採用・研修体制を改革。

### 具体的な取組みⅡ：誰もがドロップアウトしない体制作り

- ① 返済義務のない給付型奨学金制度を創設し、高校の学費や進学を経済的に支援。
- ② 不登校の児童に学びの場を提供しているフリースクールに対して、公的な支援を検討。
- ③ 高校中退者などの受け皿となっている定時制・通信制高校の支援を強化。  
特に、通信制に関しては、2016年に策定したガイドラインの下、教育の質の向上を図る。
- ④ 少年院や保護観察所において、学校や保護司などと連携した上で学習支援を推進。  
また、矯正施設で中卒・高卒卒業の認定試験の実施、高校受験、復学への支援を行う。